

戸開走行保護装置
定期検査及び定期点検の項目・事項・方法・判定基準

認定番号

ENNNUN-2457

UCMP 型式

DBG-8 型

発行：令和2年1月31日 Ver.1

	検査項目	検査事項	検査方法	判定基準
(1)	安全制御プログラム	型式	安全制御プログラムの型式を確認する。(目視にて基盤の型番の確認又は保守ツールによる確認)	基板の型式が指定された型式と同一でないこと。 3167BAA 又は 31671CAA プログラムが大臣認定を受けた型式と同一でないこと。 JAA31671BAA 又は JAA31671CAA
		作動の状況	ドアゾーン外で走行中に戸開状態にして模擬した場合の動作を確認する。	戸開走行保護装置が作動しないこと。 電動機及びブレーキの励磁コイルが電源から遮断されないこと。(UCM2,UCM1)
(2)	つま先保護板	取付けの状況	目視及び触診により確認する。	取付けが堅固でないこと。 過度の変形があること。
		長さ	かご床面からつま先保護板直線部までの長さを測定する。	規定値未満であること。 675 mm
(3)	特定距離感知装置	取付けの状況	目視及び触診により確認する。	取付けが堅固でないこと。
		動作位置	動作位置を確認する。	規定位置で動作しないこと。 着床位置から上下 75mm (±10 mm 以内)
(4)	部品	規定部品の型式	目視により確認する。	規定部品の型式が適正なものでないこと。
		規定部品の交換基準	目視及び触診により確認する。	規定部品の動作回数又は経過時間が規定値を超えていること。 UCM1,UCM2：400万回到達時又は使用年数10年経過時
(5)	巻上機	制動面の油の流出状況	目視により確認する。	制動面に油が付着していること。
		油排出場所の油の流出状況		シール部から油が流出していること。
(6)	ブレーキ	パッドの厚さの状況	可動制動板とコイルケースの隙間を測定する。	隙間が 0.53mm を超えること。(要重点点検) 隙間が 0.58mm を超えること。(要是正)
		パッドの状況	目視により確認する。	パッドに欠損、割れがあること。又は剥離していること。
		ブレーキパッドの動作感知装置	ブレーキ開放時及び締結時の動作感知装置の接点信号動作を確認する。	ブレーキの開閉と接点信号動作が一致していないこと。
		制動力の状況	両側ブレーキによる無積載上昇時のかご停止距離を測定する。	停止距離が規定距離を超えること。又は、停止距離の変化量が規定距離の 15% を超えていること。
上記 (1) ～ (6) の検査結果で「要是正」又は「要重点点検」および別記第一号 1-(14)・3-(3)・4-(11) の検査結果で「要是正」又は「要重点点検」の判定がある場合は、別記第一号 2-(9) 「戸開走行保護装置」の検査結果を「要是正」又は「要重点点検」と判定する。				

この印刷物に記載した内容は、予告なく変更することがありますのでご了承ください。

著作権所有：日本オーチス・エレベータ株式会社